



詩吟を続ける97歳

## 原 二郎さん

はら・じろう  
広葉町在住。  
斜里町出身。青年学校～兵役学校を経て、自衛隊に勤務後、会社勤めなどを85歳まで続けていた。平成17年から日本詩吟学院広葉吟詠会に所属している。

### 詩吟の魅力

ある日の昼下がり、集会所から独特の節回りで吟ずる声が聞こえた。原二郎さん、大正13年生まれの97歳だ。若々しい声で吟ずるのだが、もうすぐ100歳とは思えない声量だ。詩吟は、詩に節調をつけて歌う芸道である。声だけで詩の内容や背景を表現するためには、腹式呼吸を意識して、腹から声を出すことが必要だ。

原さんが所属するのは広葉吟詠会。「ここは高齢者が多くて、原さんのほかにもう一人90代の男性がいます。二人とも声量があつてうらやましいです」と教場長の弓野さん。

仲間からの紹介で、原さんは詩吟を始めた。それが80歳を過ぎてからだというから驚きだ。

健康増進にも役に立っているとのこと。「声を出すことは肺や、体の機能が活性化する作用があると思います。何より仲間がいるから楽しいですよ」と素敵な笑顔で話してくれました。

### 声を出しっぱなしの人生

思えば声を出しっぱなしの人生だったという。小さい頃から声が大きかった。

戦中、軍隊予備校である青年学校

## 焦らず、楽しく、声を出す

に入り、兵役学校に進んだがそこでも訓練でずっと声を出していた。

「私についてはと思いません。1年早くても、1年遅くても生きていなかったかもしれないです。自分は生き延びた人間だと感じています」と話す。生かされた命を精一杯楽しみたいそうだ。

### 北広島に住んで半世紀

原さんは、約50年前から北広島に住んでいる。ここは自分にぴったりな場所だと感じているそう。

「やはりボールパークができるのは、刺激的な出来事です。全国的に北広島の名を広める原動力になりますね」と語る原さん。

最後に「時の流れにまかせて、焦らず、楽しく、声を出して悠々自適に過ごすのが私のモットーです」と力強く話してくれた。

人に恵まれたと話す原さん。これからも仲間と詩吟を楽しみ、長生きしてほしい。



原さんが所属する日本詩吟学院広葉吟詠会では会員を募集しています。詳しくは、27ページのふれあい通信をご覧ください。